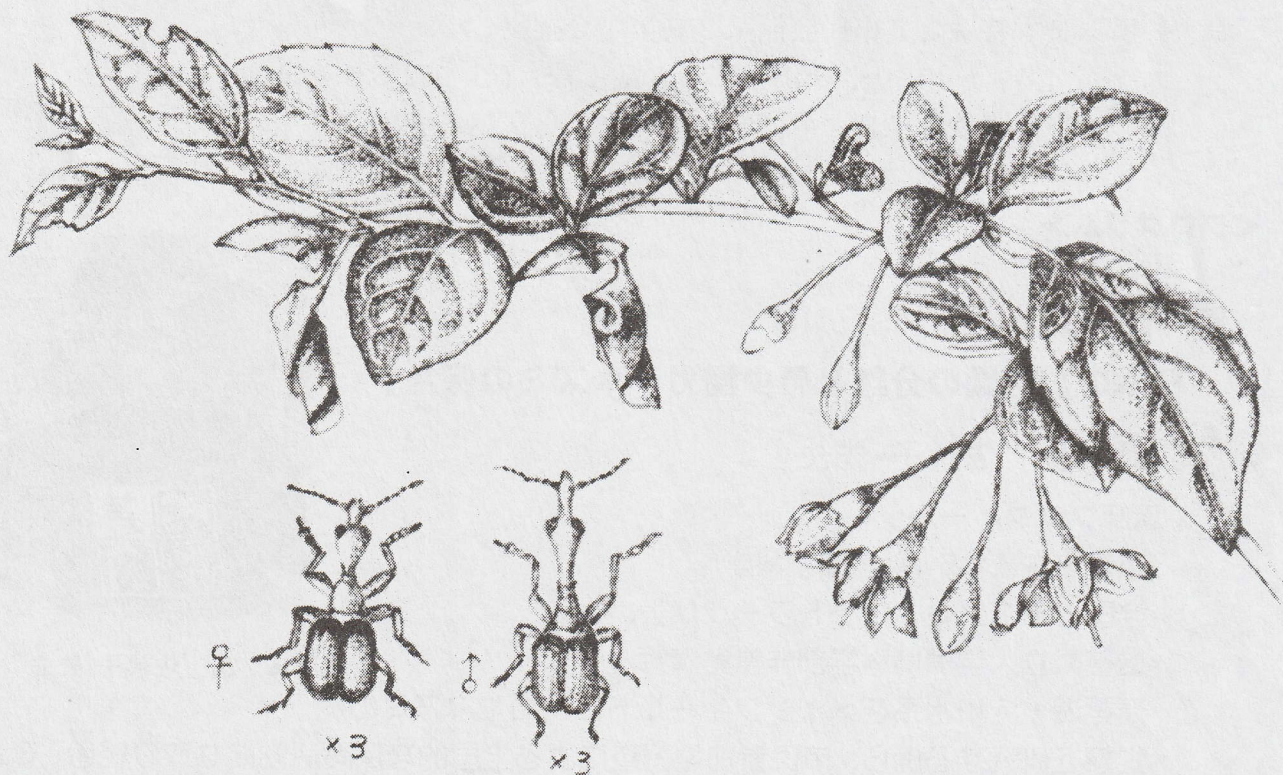


協議会ニュース

No. **152**

2016. 9



Contents

- 02 【募集】生物(哺乳類)分類・生態研修会
- 03 「協議会交流の日」のご案内
- 04 樹木ラリー
- 05 さららパークの自然観察
- 06 早春の原生林の植物
- 07 豊田市稲武・自然観察ハイキング
- 08 世界のインタープリテーション
第7話 エンセナーゼ(メキシコ)の湿原
- 09 私の活動紹介「Web の活用」
- 10 平成 28 年度 第2回理事会 報告
- 11 平成 28 年度 第3回理事会 報告
- 12 きららの森ギャラリー/編集後記

事務局	石原 則義
知多支部	南川 陸夫
名古屋支部	滝田 久憲
東三河支部	瀧崎 吉伸
西三河支部	岩月、相良、永井
事務局	石原 則義
東三河支部	中西 正
知多支部	永田 孝
事務局	石原 則義
事務局	石原 則義

今号の表紙

木村 絢子 (尾張支部)

エゴとエゴノツルクビオトシブミと
その揺籃 (ようらん)

生物（哺乳類）分類・生態研修会

主催：愛知県自然観察指導員連絡協議会 後援：日本自然保護協会・愛知県
本事業はあいち森と緑づくり環境活動推進事業の助成を受けて実施します

日時：平成28年10月10日（月・祝）13:30～16:00（受付13:15～）
場所：日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室
（名古屋市中区 金山一丁目5番1号 Tel 052-331-2141）
※地下鉄・JR・名鉄金山駅北口から徒歩5分

《プログラム》

第一部 講演（13:30～15:10）

「日本の齧歯類の分類と希少種カヤネズミの保全」

講師：畠 佐代子 先生

講師プロフィール：

京都市生まれ。博士（環境科学）。

全国カヤネズミ・ネットワーク代表、

滋賀県立大学環境科学部非常勤講師。

琵琶湖・淀川水系をメインフィールドに、カヤネズミの

生態を研究する傍ら、市民参加型調査による全国的な保護活動にも取り組む。著書に『すぐそこに、カヤネズミー身近にくらす野生動物を守る方法』（くもん出版／第63回産経児童出版文化賞 産経新聞社賞受賞）、『カヤネズミの本ーカヤネズミ博士のフィールドワーク報告』（世界思想社）など

講演要旨：

日本に生息する齧歯類の分類と、外国産の齧歯類が日本の生態系にもたらす様々な問題について紹介します。また、生息地となる草地の減少や環境の悪化により、全国的に絶滅の危機に直面している、日本最小の齧歯類であるカヤネズミの保全について、最近の研究成果を交えてお話しします。

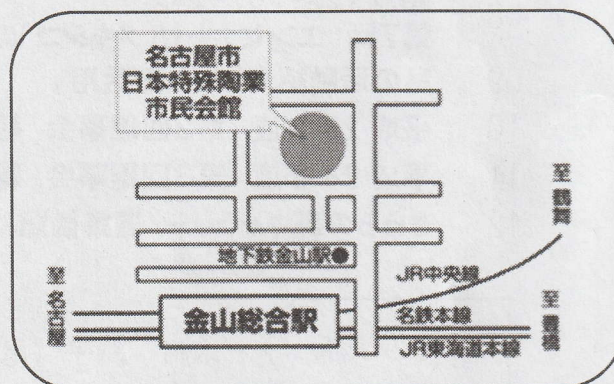
休憩（20分）

第二部 討論（15:30～16:00）

研修会終了後、
講師を囲んで懇親会を行います



▲ 畠 佐代子 先生



▲ 日本特殊陶業市民会館

「協議会交流の日」のご案内

日 時：平成 28 年 11 月 3 日（木、祝日） 10:00～15:00

場 所：蒲池海岸（常滑市小林町蒲池海岸）

集合場所：鬼崎漁協 蒲池町 3 観察会の幟の受付へ(10:00)

- 車で直接参加の方：鬼崎漁協駐車場に駐車(なるべく乗りあわせておいでください)
- 名鉄常滑線利用の方：蒲池駅（普通のための停車駅）下車、
鬼崎漁協へは西北西へ 約 300m 改札口前 9:46 頃集合

《プログラム》

○開会（10:00）

○蒲池海岸での漂着物の観察（10:15～11:30）

テーマ・内容等：木曾三川、伊勢湾に流れ込む各河川、外洋等から流れ着いた漂着物を観察し、自然環境について学ぶ

○昼食休憩（11:45～12:45）蒲池コミュニティーセンターにて

- ・温かい汁物（インスタント食品及び、お湯は準備）をします。
- ・おにぎりなどの軽食とお碗などの器と箸は各自ご持参ください。

○交流会（13:00～15:00）蒲池コミュニティーセンターにて

各支部での活動報告など（各支部であらかじめ報告者を決めておいてください）

○申込み・問い合わせ先

10 月 27 日（木）までに電話/FAX 又は E メールで申込んで下さい

知多支部 南川陸夫 電話/FAX 0569-42-5382

E メール r-minami@Ktf.biglobe.ne.jp

《蒲池海岸の概要》



蒲池海岸は知多半島の中央伊勢湾側にあり、海岸植物の多い砂浜です。

コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマゴウ、ハマボウフウの群落があり、この地方には珍しいスナビキソウもあり 5 月にはこの花にアサギマダラもやってきます。



▲28 年 7 月 21 日現在の漂着物の状況

樹木ラリー

名古屋支部 滝田 久憲

【日 時】2016年5月4日(水・祝)

9:30~12:00

【場 所】名城公園(名古屋市北区名城)

【参加者】一般10名、会員9名、
環境局職員1名

この観察会は、環境問題をテーマにして、毎年名古屋市環境局環境学習センターと協力して行っている「ふるさと親子自然観察会」と同時開催で実施しました。

ところで今回の観察会は、開催日が「みどりの日」という事で、都市公園の緑が果たす役割などを学ぶために、「樹木博士になろう!!」をテーマとして実施しました。地球温暖化の進行に伴い、現在、都市におけるヒートアイランド現象が問題となっています。こうしたなか、名古屋支部会員の一部の方も市民調査員として参加した昨年 of 名古屋市一斉気温調査などから、都市の緑が気温を下げる効果があることなどが分かりました。また、樹木は空気を綺麗にしてくれたり、そこに多くの生き物が集まることで、私達に憩いの場や自然に触れ合う機会などを提供してくれます。そこで今回の観察会では、都市公園に植栽されているいろいろな樹木を観察しながら、その特徴や役割などを参加者に学んでもらい、身近な都市公園の大切さやその保全などについて考えてもらうことにしました。

4月30日にはスタッフで会場の下見を行い、野球場のフェンスの周りに設けられた周回路を反時計回りに回りながら、クスノキ、ヒノキ、トウカエデ、マツ、イチョウ、ケヤキ、フジ、ツバキ、サクラ、モミ

ジの10種類の樹木を選び、この順番に①から⑩までの番号をつけ、当日、それぞれの樹木に番号札をつけました。参加者には、この10種類の樹木を含む名城公園で見られる樹木を解説した簡易な図鑑と、葉っぱの形などを記録するための観察記録用紙など用意しました。

開催日当日は、名城公園フラワープラザ前に午前9時30分に集合しました。参加者を4つのグループに分け、それぞれのグループに二人の指導員がつき、約2時間かけて全コースを回りました。最後に、集合地点の前で10種類の樹木の葉っぱの写真と樹木の特徴などを書いた質問用紙を参加者に配布し、樹木名を答えてもらいました。最後に答え合わせをすると全員正解でした。

今回の観察会では樹木の名前だけでなく、私達のくらしにどう関わってきたかなどを伝えることの大切さを改めて感じました。



▲自然観察会風景

さららパークの自然観察

東三河支部 瀧崎 吉伸

日 時：5月4日（水）9：30～12：00

場 所：休暇村伊良湖 さららパーク

参加者：一般参加者 26 名、指導員 24 名

みどりの日の当日は天候に恵まれ、参加者は暑いくらいの陽気の中で楽しく自然観察をすることができました。

休暇村伊良湖のさららパークは、休暇村のリニューアルに伴い、老朽化して稼働していなかったプールを撤去して作られました。コンセプトは、世界最初の海浜植物をテーマとしたビオトープ。休暇村からほど近い伊良湖西ノ浜は、世界でも有数の海浜植物の宝庫です。特にハギクソウは、世界中でもこの西ノ浜周辺の数カ所の群落以外、確実な産地がありません。（韓国の済州島から古い報告がありますが、現状は不明です）それらの希少な海浜植物の保存と、花が美しいものが多い海浜植物の展示を通して伊良湖の自然に興味を持ってもらおうというのがビオトープ設置の狙いです。

ビオトープは宿泊施設の北側にあるみどり池周辺に建設中で、かなりの面積を持ちます。みどり池は、地下水がたまってできた池で、ミネラルが豊富なために植物性プランクトンが多量に発生してグリーンウォーターになっていますが、多くの水鳥が集まるなど良い環境です。観察会当日もソリハシギが観察され、参加者は一生懸命に双眼鏡やスポットスコープを向けていました。

ビオトープになる前、このエリアはお花畑になっており、オオキンケイギクをはじめとする外来種だらけでした。そこで、この外来種の駆除と土壌中の埋土種子の復活を目指して、大規模な天地返し工法が行われています。

自然は我々人間が考えるほど甘くはなく、工事半ばの現状は、新しくできた荒れ地に1年生の外来種（主にオオフタバムグラ）がはびこってしまい、期待した海浜植物の再生はあまり起きませんでした。埋土種子は種子が大きい植物の場合、種子そのものがエネルギーを使ってしまうのか、年数が経つとほとんど発芽できなくなります。現地では何とアツミゲンが埋土種子から再生して、対応に追われています。観察会当日も参加者に駆除のお手伝いをしていただきました。

とはいえ、みどり池の中にぽつんとある小島では、かなり徹底した外来種の除去を行うことができ、ハギクソウやハイネズなどの希少種を保存するエリアとして活用が始まっています。今後は保存する植物の種類も増やして行きたいと考えています。

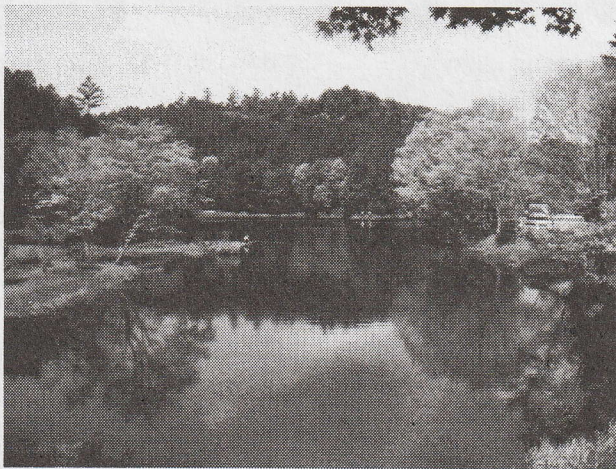
観察会の最後になって、何とメリケントキンソウの群落が宿泊施設の近くにあることが参加者の指摘でわかりました。これは容易に駆除できず、県の担当者に連絡をして処置をお願いすることになりました。

海浜植物も外来種もそれぞれにおもしろいテーマとなった観察会でした。

早春の原生林の植物

西三河支部 永井 初美

日 時：5月14日（土）晴れ
場 所：段戸裏谷原生林（きららの森）



▲段戸湖全景

地元設楽町により「きららの森」と命名されている段戸裏谷原生林は、豊かな植生に恵まれています。例えば、この日に開花を見ることができたツツジ科は、トウゴクミツバツツジ、ダイセンミツバツツジ、ヤマツツジ、シロヤシオ、ベニドウダン、ウスギヨウラク、ギンリョウソウの7種です。ホンシャクナゲ、アズマシャクナゲは植えたものかもしれません。花はありませんでしたが、アセビ、ネジキ、スノキ、ウスノキ、バイカツツジ、ミツバツツジもあり、合わせると15種にもなります。トウゴクミツバツツジとダイセンミツバツツジは似ていますが、トウゴクミツバツツジは花柱の下部に毛があることで区別できます。シロヤシオは、格調高く、やさしい色合いで咲いていました。ベニドウダンはちょうど咲き始めで、赤い花穂を自慢げにたくさんぶら下げていました。

ランは3種見ることができました。3株のイチヨウランは8日前にも同じように開

花していたので、花の時期がずいぶん長いのだと感じました。ヒトツボクロは8株が花芽をつけていました。ジンバイソウもたくさんありました。

イワセントウソウが咲いていました。花弁が5枚の白い花ですが、花全体が2～3ミリの大きさに、参加者がカメラに収めようと苦戦していました。葉はレース編みのような繊細さで、セリバオウレンの葉と大変よく似ています。よく比べて、なんとか区別ができるようになりました。これは実物を目の前にしてこそできることです。

始めに段戸湖沿いに歩き、後半は森入りました。森にはブナやミズナラの巨木がたくさんあり、若木もちゃんと育っているのので、この森は当分安泰であるように思われます。古いブナの幹などに着生するヤシャビシャクは、首が痛くなるほど見上げたブナの幹で2カ所、倒れた幹に1カ所ついており、咲き終わった花や若い実を見ることができました。こんなに近くで見たのは初めてです。スギランのおまけつきでした。

遊歩道沿いのナンバー1と2の太さのミズナラが枯れていました。2本の巨木が音を立てて倒れるのはいつで、そのあとにはどんな光景が広がるのでしょうか。ヒトツボクロの8つのつぼみはちゃんと咲くのでしょうか。

また、訪れてみたい、何度も来てみたいと思いながら段戸裏谷をあとにしました。解散場所から湖畔沿いに駐車場にもどる途中、センダイムシクイのオスが、無我夢中でさえずっているかわいい姿を見せてくれました。段戸裏谷にも夏がきました。

豊田市稲武・自然観察ハイキング

事務局 石原則義

4月26日（火）9:30 名古屋市稲武野外教育センター第1本館前（標高850m）に集合し、朝会を実施。指導員19名と名古屋市立振甫中学校2年生5クラスの生徒の対面式である。県協議会の代表である大谷会長の代わりに挨拶をした。

「樹木にふれる、匂いを嗅ぐ、じっくり見る、など五感のいくつかを使って、自然の息吹を感じて欲しいと思います。これからの4kmをただ歩くだけでなく、自然と触れ合うことで、面ノ木園地に到着した時には、自然から元気をもらっていると思います。これを機会に、一人でも多くの方が自然を愛し、守るファンになってくれることを期待します。」と話した。

1班10人前後のグループごとに面ノ木園地（標高1,250m）までの散策道4km（標高差400m）を自然観察した。

歩き始めて目立つのは植えられてから何十年も経つスギの人工林である。同じ時期に植栽されたと思うが太さが違うのはなぜだろう。

モミノキも目立つ。真っ直ぐに育つ。日本でクリスマスツリーという、一般的にモミノキを指す。モミノキは針葉樹と落葉樹の境界に生える。葉の先端は2裂して鋭く尖り、触ると痛い。触って、実感してもらう。

クロモジが葉の展開と同時に、小枝の節に散形花序を出し、淡黄緑色の小さな花を多数付けていて味いがある。香りが良く和菓子の楊枝にも使われている。匂いを嗅いでもらう。

4月22日（金）に下見を行い、西三河支部の水谷・山本両氏から、たくさんの樹木

の名前、指導員の心構えを学んだ。下見のまとめの資料を作り、本番当日、自然観察指導員に渡した。

砂防ダムとは山地や溪流からの土砂の流出を防いだり、水の流れを緩やかにするために、山間部や溪流に設けるダム。土石流などによる土砂災害の防止を目的として設置する。砂防ダムはなんのためにあるのでしょうと、一緒に考えてみる。

ブナは日本特産の温帯林を代表する樹木の1つである。稲武では標高800～1200m付近の、いわゆるブナ帯の落葉広葉樹林を構成している。葉は側脈の先端が鋸歯のへこんだところへ向かっているのが特徴である。ブナの葉を拾い、じっくり見てもらう。

答えを先に言うのではなく、できるだけ考えてもらうことに重きを置いた。

12:00すぎに各班が面ノ木園地に到着し、各班で反省会をした。

昼食後、指導員だけで今後に生かすための反省会をした。

今回の観察会には名古屋支部9名、尾張支部5名、知多支部1名、西三河支部4名の合計19名のご協力を得た。厚く御礼申し上げる。



▲バイケイソウ

アメリカ国境に近いエンセナーゼ。その南方向にあるブンタ・パンダ湿地は太平洋に面しており、北に延びた砂嘴が内側の潟湖を分けている。その潟湖の岸辺が広く干潟になっている。干潟の周辺が塩生湿地である。この潟湖全体がラムサール条約指定地である。この砂嘴の先端部分が住宅地として開発されそうになった時、反対する形でプロ・エステロスというグループ（組織）ができた。このグループは、この湿地だけでなくカリフォルニア半島の湿地でも活動をしている。保護活動の他に環境教育、調査活動を行い、環境における湿地帯の重要性の知識を広めているという。その一環だろうか、就学前の子どもから小中高生に対してエコシステムに関する教材やプログラムを作ったり、教師を対象に学校における環境教育を行っているという。ブンタ・パンダ湿地は、このプロ・エステロスの他に全国レベルの団体と地元の団体の3団体が保護に関わっているということだった。

住宅地が終わるあたりから観察トレールがあり、内海側の海岸に降りた。そこで二つのグループに分かれて観察することになった。それぞれにプロ・エステロスの会員が解説してくれる。プロミナーが準備され、通訳には事前に自然の資料が渡されていた。トレールの行程は1.5 kmで往きは潟湖側の内側を見る。帰りは砂丘部を横断し、太平洋の海岸に出る周遊コースである。ポイントごとに図と説明が書かれた看板が立っている。道は幅2 m 弱の踏み跡道である。看板の説明は生物の種類、干潟の鳥全般や生態系の話だった。植物についての説明が多いが、その植物も移動して、看板がある所にその種類がない場合もあった。ハマサジは広く分布し、日本で見られる、水につか

る状態より上部に位置しているようだった。アッケシソウに似たものもあった。オニシバはその表面に排出した塩を結晶として付着させていた。シオスギとかカリフォルニアマツナのような固有の植物がある一方で外来植物も多かった。

レリット（大輪マツバギク）は南アフリカ原産の多肉植物で、5 cmを超える大型の葉をつける。最近は渥美半島の西の浜でも多く見られるようになったが、これが砂丘部を中心に広く生えていた。またシオマツやタドレアはヨーロッパから入ってきたものだという。レリットの場合、広がり過ぎているので駆除をしているのか聞いたところ、駆除した場合のデメリットもあると、言いつつ除去実験をしていることも明らかにした。資料の中にスパルティナの語があった。日本ではこの種が既存の塩生植物の生態を破るのではないかと危惧されているだけに、こちらでの生態に関心があった。ガイドにそれが出てきたら教えてほしいと言ったら、目の前のものを指示した。30～40 cmの、シオググを大きくしたようなかわいものだった。日本のスパルティナとは異なるものであった。



▲塩湿地の自然観察

帰りの砂丘の植物も興味深かったが、そこにも先のレリットが広く分布していた。波打ち際には褐藻類のジャイアントケルプが打ち上げられていた。切れ端にもかかわらず6 mの長さがあった。

Webの活用

知多支部 永田 孝

私は協議会のホームページ担当をしていますが、どういうわけか私の自然観察にはWebと縁があります。そもそも、知多支部に入ることになったのも、当時暇をもてあましていた私が、知多自然観察会のホームページをたまたま見たことがきっかけでした。平成16年に知多支部に入会後、翌年には指導員講習を受け、その次の平成18年からは協議会の理事になり、ホームページを任されるようになり… はや10年です。

私の住む美浜町は自然豊かな土地ですので、さまざまな生き物たちと出会います。そんな一人自然観察会が、私の楽しみになっています。

ありふれた地元の自然でもたまには感動的なこともあったりして、そんな時にはFacebookにアップして、見てくれる友達と感動を共有しています。今年の春には美浜町に住み着いたコウノトリの“ゆめちゃん”にもばったり出会いました。

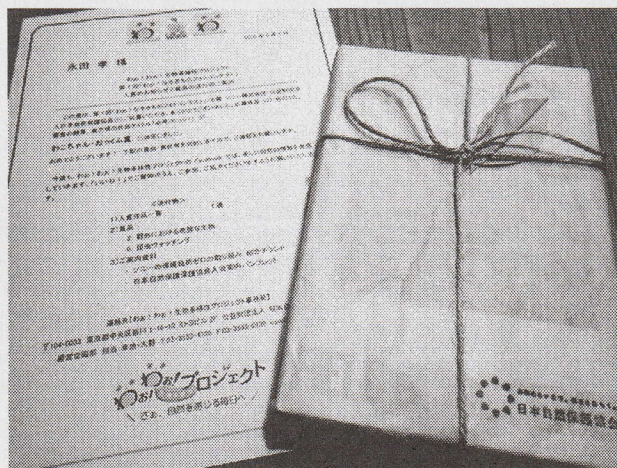


▲コウノトリの“ゆめちゃん”

ここからはFacebookが嫌い、興味が無いとおっしゃる方には意味の無い情報かもし

れませんが、私なりのFacebook活用法を紹介します。

実は日本自然保護協会も“しぜんもん”や“わお！わお！生物多様性プロジェクト”など関連のものを含めると複数のFacebookページを持っています。そのページに“いいね”をしておく、いろいろな情報やイベントのお知らせが入ってきます。私はそのお知らせで知った“わお！わお！生物多様性プロジェクト”のフォトコンテストに



▲いただいた賞状と副賞

応募し、わこちゃん・おつくん賞をいただきました。

またFacebookは、自分のページ以外にFacebookページという個別のページを作ることができます。私は知多自然観察会の美浜・南知多地区のページを作り、知多半島のイベント情報を取り上げているグループにイベントをシェアして、参加者を募っています。先日ウミホタルの観察会を案内したところ大きな反響がありました。また、最近ですが協議会のページも作りました。“あいち自然観察会”で見られますよ。

平成 28 年度 第 2 回理事会 報告

日 時：平成 28 年 5 月 5 日（木・祝）13:30～ 場 所：名古屋都市センター

出席者：大谷、星野、堀田、石原、吉田、久米、森田、永田、布目、石川、瀧崎、新山、[※]長谷川、齋竹、
滝田、南川、三田、河江

◆活動報告（3 月～5 月）及び今後の事業予定（5 月～7 月）

◆議案

<主な確認事項>

フォローアップ 研修会 県協議会主催・ 日本自然保護協 会協力。愛知県 後援予定	日 時：8 月 20 日（土）～21 日（日） 場 所：庄内緑地グリーンプラザ ・今年から県協議会主催で、「あいち森と緑づくり環境活動推進事業」 として実施することとなった。 ・名称を検討した結果、「自然環境サポーター養成講座①」となった。 ・テーマはネイチュア・フィーリングだが、会員に限らず誰でも参加で きるように、キャッチフレーズは“ユニバーサル”な自然観察を学 ぼう」とした。 ・次代を担う若者にも参加してもらえよう一般向けのチラシを作成 ・当日は協議会からスタッフを 3 名出すことに決定。
生物分類研修会 県協議会主催・ 日本自然保護協 会・愛知県後援 予定	日 時：10 月 10 日（月・祝）13:30～ 場 所：日本特殊陶業市民会館 3 F・第 1 会議室 テーマ：哺乳類分類と生態（一般参加も可） ・研修名称は「自然環境サポーター養成講座②」（一般参加も可）とする ・講師は、畠佐代子さん（日本カヤネズミ・ネットワーク代表）及び南 川睦夫さん（知多自然観察会会長）とする ・あいち森と緑づくり環境活動推進事業として実施
協議会交流の日 担当：知多支部	日 時：11 月 3 日（木・祝）受付 9:30～ 場 所：常滑市蒲池海岸 テーマ：漂着物の観察会
受託事業	豊田市稲武・自然観察ハイキング（稲武第 1 本館～面ノ木園地（4 km）） ①名古屋市立沢上中学校 2 年生 日時：8 月 3 日（水）10:00～12:00（集合 9:30）/指導員：12 名（6 月募集） ②名古屋市立有松中学校 日時：9 月 8 日（木）10:00～12:00（集合 9:30）/指導員：24 名（7 月募集）
調査	・「海浜の植物」を視野にできるかどうかを検討する ・知多支部の海辺の自然調べも参考にする。
名簿管理	個人会員は合計 382 名、家族会員 11 名（2016 年 5 月 1 日現在）、
保険	平成 27 年度の観察会の保険対象者数が示され、保険料を納付するよう依 頼があった。

<その他>

- ・理事の新山さんを保険担当の見習い、長谷川さんを会計担当の補助と決めた。
- ・人と自然の共生国際フォーラムの後継組織の立ち上げについて、大谷会長より報告あり。
- ・愛知県の外来種研究会について、堀田副会長より報告あり。
- ・次回：第 3 回理事会 7/18（月・祝）13:30～（東三河支部担当）

平成 28 年度 第 3 回理事会 報告

日 時：平成 28 年 7 月 18 日（月・祝）13:30～ 場 所：穂の国豊橋芸術劇場

出席者：大谷、星野、堀田、石原、森田、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、新山、長谷川、齋竹、滝田、寺本、河江

◆大谷会長より

会計の処理をスムーズにするために新たに印鑑を作ったとの説明があった。

◆活動報告（5月～7月）及び今後の事業予定（7月～11月）

◆議案

<主な確認事項>

フォローアップ 研修会 主催：県協議会 協力：日本自然保護協会 後援：愛知県	日 時：8月20日（土）・21日（日） 場 所：庄内緑地グリーンプラザ ・申込みが 20 名に満たないので各支部 1～2 名出してもらうように要請した。 ・研修会の会計処理の手伝いを長谷川理事に依頼した。
生物分類研修会 主催：県協議会 後援(予定)：日本自然保護協会・愛知県	日 時：10月10日（月・祝）13:30～ 場 所：日本特殊陶業市民会館 3 F・第 1 会議室 テーマ：哺乳類分類と生態（一般参加も可） ・講師として東三河支部の神戸 敦さんとの話があったが、後日、体調不良で辞退された。
協議会交流の日 担当：知多支部	日 時：11月3日（木・祝）受付 9：30～ 場 所：常滑市蒲池海岸 テーマ：漂着物の観察会 昼 食：11:30～12:30(温かい汁ものの提供。おにぎり・お椀・箸持参のこと) 交流会：13:00～15:00(各支部の活動報告など) 問い合わせ先：知多支部 南川（0560-42-5382）
受託事業	豊田市稲武・自然観察ハイキング(名古屋市立有松中学校 2 年生) 日時：9月8日(木) 10:00～12:00(集合 9:30) 指導員：24 名参加予定 場所：稲武第 1 本館～面ノ木園地（4 km） ・ 8 月 3 日（水）沢上中学校は、学校側の都合により中止となる。 ・ 反省点：来年度からは、校長名で依頼状をだしてもらう。
調査	・ 愛知県内のタケ（モウソウダケ・マダケ・ハチク）調査の分布図を出したが、分布図を見ただけではわかりにくいため、調査結果のまとめを出してもらうこととした。 ・ 来年度の調査のテーマは引き続き検討する。
機関紙	編集については、編集委員にまかせきりになっている。検討事項があれば、理事会にだしてもらう。

<その他>

- ・「人と自然の共生国際フォーラム」の後継組織の会費について大谷会長より報告があった。
- ・ 定例観察会に参加された会員 O B から、観察会の進め方について意見や改善要望等が電話や手紙で寄せられているとの紹介があった。
- ・ 次回：第 4 回理事会 11/23（水・祝）13:30～（西三河支部担当）



きららの森 ギャラリー

「早春の原生林の植物」(p. 6)に掲載しきれなかった段戸裏谷原生林の植物たちの写真をご紹介します。



↑ブナに着生したヤシャビシャク



↑ヒトツボクロ

＜編集後記＞

関係各位のおかげをもちまして、無事にNo. 152の発行ができました。ありがとうございます。季節は秋を迎え、それぞれに自然とのふれあいを計画されていることと存じます。この協議会ニュースも参考にされ、楽しく充実した自然観察になることを願います。そして楽しい観察の様子や秋の味覚の情報をお待ちしております。私はきのこ「撮り」「採り」を楽しむつもりです。(馬場)

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」	久米未祐 TEL : 090-3302-1621
編集部	E-mail : ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page : <http://naichi.net>
郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)